

平成 24 年度 第 1 回 気候変動にともなう防災・減災を考える会

要 旨

日 時：平成 24 年 9 月 27 日 13:30～15:30
場 所：鳥取河川国道事務所 1 階会議室
参加者：委員、随行者、事務局含め約 25 名

本会趣旨

近年、全国的に大規模な水災害が頻繁に発生する中で、千代川流域においても、全国的な傾向と同様に、温暖化に伴う気候変動によると考えられる集中的な降雨、潮位の上昇傾向等が見られ、今後も流域に対する水災害リスクが上昇していくことが考えられている。

こういった背景を踏まえ、気候変動にともなう水災害リスクに対する適応策(ソフト的な取り組み)について、学識経験者、地元関係者、及び関係行政機関等で考えていくことを目的として本会を設立。

今後この会で、千代川沿川住民の水災害における自主防災意識(自助・共助)の向上を図り、官民一体となって「犠牲者ゼロ」に向けた取り組みを推進していく。

第 1 回会議 議事概要

- ・ 分科会設立趣旨
- ・ 前回会議の要旨
- ・ 九州北部豪雨における課題
- ・ 分科会の今年度の取り組み
- ・ 住民アンケート調査の実施
- ・ 意見交換(ソフト対策を継続していくための仕組みづくりについて)
- ・ 今後のスケジュール

主な意見

<九州北部豪雨での課題について>

- ・ 短時間で予想のつかない豪雨の情報は、直ぐに入手できるのか。
国と県は气象台から雨量情報をもらい、共同で洪水予報を発表している。市やマスコミを通じて住民にも伝達される。
- ・ 今年 2 月に情報伝達勉強会を開催し、HNK のデータ放送など、市に情報を提供するための仕組みづくりもできあがっている。
- ・ 県管理河川で一番危険なのは大路川である。流域が小さくて洪水予報はできないが、水位の情報は市に提供している。
- ・ 9 月 10 日に鳥取市総合防災訓練でエリアメールが配信されたが、ドコモで 80%、au とソフトバンクは全然届かなかった。お年寄りも携帯電話を持っているので、確実に情報を伝達できる手段を確立しなければならない。NHK もデータ放送の広報をするべきである。
- ・ 県ではトリピーメールを使っているが、登録率は低い。

<分科会の今年度の取り組みについて>

防災学習会の開催

- ・ 防災学習会などの広報は、防災フェスタなど人の集まるところでスピーカのついた車ですべきである。

今回の学習会は国交省の主催ではなく、自治会の会合に協力した。他の地区でも要請

があれば出向く。

- ・ 大学も今年度から地域安全工学センターを設置した。教員が出向き、要望を伺う組織ができた。

防災教育

- ・ 市の教育委員会は、小中学校の防災計画をつくることにした。年明けにできる予定なので、大学や国に講師の依頼がくるかも知れない。
- ・ 教員がどのような防災教育を受けるかが大事である。地震、火災は共通だが、水災害は地域によって特性が違うので、防災計画に反映させる必要がある。

ライブカメラのライトアップ

- ・ 行徳にはライブカメラが2つ設置されており、1つはHP用で固定、もう1つは管理用で回転できる。管理用にはライトがついており、本資料はそれを点灯させた場合の映像である。今後、HP用にもライトをつけることを計画している。
- ・ 県のカメラでも検討して欲しい。

まるごとまちごとハザードマップ

- ・ まるごとまちごとハザードマップも要望があれば他地区にも設置するのか。
国交省では看板を作成する。設置については、地域の方に自分たちで場所を選んで電柱管理者などと調整してもらいたい。地域の防災意識を向上させることが、この取り組みの意義である。
- ・ ハザードマップでは浸水深が3mとか4mとなっており、本当にそこまでくるのかわからないが、「うちの玄関が何m浸るか」を知るのは大事なことである。

防災フォーラム

- ・ 防災フォーラムは千代川流域住民を対象とし、モデル地区の代表者がパネルディスカッション等で取り組みを紹介しあう。
- ・ 人を集めることが難しい。防災意識の低い人達をどうやって引っ張り出すかが一番重要である。

クロスロードゲームマニュアル

- ・ クロスロードゲームは、住民同士が話し合うことで良いものが生まれる有用なツールである。
- ・ 小さいグループで数多く実施する方が効果的である。運営マニュアルができあがったら、リーダー研修をしてもらって町会の会合に押しかけるのが良い。自主的に集まってもらうことを期待するのは難しい。

防災カレンダー

- ・ 地域がつくるというならば協力するというスタンスである。

佐用町との意見交換

- ・ 意見交換の開催は、是非、お願いしたい。
- ・ やまびこ館で開催されている災害史を市民が見られるようにする広報が必要である。鳥取市の過去の水害写真や話を子どもに伝承するのが良い。身近なことを話す方が熊本市や佐用町のことを話すよりインパクトがある。
- ・ 千代川の堤防ができる前にどのような被害があったかを教えておくことも重要である。

避難シミュレーション

- ・ 大正地区では、水害時に避難する高い建物がない。大正小学校は屋上に上れない構造なので、校長はいざとなったら山に登ると言っている。自分たちで決めないといけないのか、市が決めてくれるのかが曖昧になっている。
- ・ 鳥取平野には、小さな山がたくさんある。里山として守って、散歩道や避難場所、集会所をつくる計画を立ててはどうか。標高が10mもあれば十分である。
- ・ 大正小学校から山までは500mくらいある。夜間などに逃げろと言われても難しい。小学校を屋上に上れるように改築してはどうか。
- ・ 鳥取市は全国でも高齢化率が高く、どうしても車を使って逃げなければならない人もいる。車を使った避難方法も考えないといけないが、道路整備も必要だし、今すぐは難しいと思われる。

< アンケート調査について >

- ・ 配布の際には、前回は何に役立てたか、今回は何のために実施するかを記述しておいて欲しい。

< 次回会議について >

- ・ 次回会議は、これまでの取り組みをとりまとめ、提言についての議論を行いたい。
- ・ 本会のような取り組みを、どこかで継続させなければいけない。

< 道上オブザーバーの意見 >

- ・ 気候変動の状況は明瞭ではないが、最近では尋常でない雨が降っている。千代川でも例外ではない。
- ・ 堤防や堰ダムの整備が住民に安心感を与えてしまうが、想定している雨よりもたくさん降る可能性があり、そうなった時に「人命だけは助ける、だから逃げる」ということを意識しておくことが大事である。
- ・ 住民の防災意識は高くなってきている。こういった取り組みを5年10年継続していくことが重要である。

以上